

入れ歯（義歯）

入れ歯といっても様々な大きさのものが 있습니다。1本歯がない1本の部分義歯から全部歯がない総義歯（総入れ歯）まで、大きさや働きなど全く異なります。

作成の手順

医療面接 術前診査診断

印象（型取り）

咬合採得（かみ合わせ）

総義歯や総義歯に近く歯が沢山欠損していて前歯も欠損している時などは、咬み合わせ高さだけでなく、歯の出具合など入れ歯を作る色々情報を、ロウ堤を使って調べます。



印象（型取り）

ロウ堤

ピンクの所がロウでできた
ロウ義歯

試適

完成した入れ歯と同じような形でピンクの部分はロウで作ったロウ義歯で高さ人工歯の位や床（ピンクの部分）の大きさなど最終確認をします

義歯セット

完成した義歯をお口の中に入れてかみ合わせ、歯ぐきなど痛いところがあれば、調整します。調整して良くなったら、実際に使ってもらいます。

義歯調整

実際に使ってもらった後、不具合のある所を調整します。

欠損少ない義歯（小さい入れ歯、歯が沢山残っている時）は試適をしない場合もあります。またかみ合わせがしっかりしているときは、ロウ堤を使わずにかみ合わせをとる事もあります。

お手入れ

歯磨きをする時は、入れ歯を外して、歯ブラシや義歯ブラシで入れ歯を洗います。

保管する時は、入れ歯は水に入れます。

寝る時は、入れ歯をはめないとかみ合わせがおかしい時は、入れ歯をはめて寝ましょう。

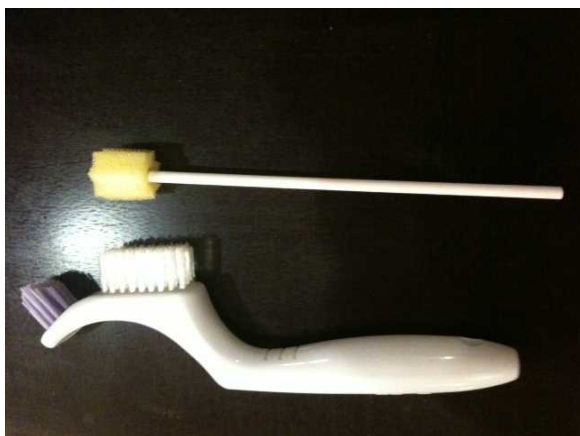
詳しくは、歯科医師の指示に従ってください。

介護状態にある場合などなかなか義歯の手入れまでできずに画像のような義歯になっている場合も少なくありません。



画像のように食べかすや汚れのついたままで寝たきりの場合、高齢者は反射が鈍いためその汚れが気道に誤って入ってしまい肺炎になることも多々あります。

誤嚥性肺炎は寝たきり高齢者の死亡原因の上位です。肺炎を防ぐためにも入れ歯用の歯ブラシで水道水を流しながら汚れを落とす必要があります。



図の上は粘膜を掃除するもので下は入れ歯用ブラシです。このようなものを活用してお口の中の汚れをとることが誤嚥性肺炎の予防につながります。